



↑ 足湯で極楽♪♪

がありました。これは、申し訳ないのですが、私には上手く説明することができません。高校時代、もっと化学を勉強しておけば、今、より詳しく理解できたかもしれないのに・・・と後悔しています。でも、実際に見ていただいた方が理解できるのではないかなあと 생각합니다。ここはもちろん、チーム・マイナス6%という、国を挙げて取り組んでいる事業にも参加しています。説明を受けていくうちに「壮大なプロジェクトに参加しているんだ」という責任感が芽生えてき

ました。

□ 風のがっこう

私たちが行ったときは既に、風のがっこうの外観が完成していました。町の中心部からそんなに遠くない場所にログハウスが建っています。けれども、不調和だという印象は全く受けません。なんと言いますか・・・がっこうやその周辺だけが違う空間に存在しているようなのです。なんとも不思議な感じです。

このがっこうは、新エネルギーを学ぶ場というだけでなく、サークル活動もできるような、市民のふれあいの場にもなる予定だとうかがいました。さらに小さな喫茶もできるということで、老若男女問わず、様々な年齢の市民が集い、交流する、稚内のホット・スポットになるのではないかと期待しています。

十月を過ぎた今、がっこうはもう開校していることだと思っています。このがっこうを通じて、稚内をはじめとして北海道さらに本州も、新エネルギーで繋がっていったらいいなあと 思いました。

□ 副港市場

この空間は個人的に大好きです！昭和の町並みが再現されていて、探求心・好奇心がそられます。また、駄菓子屋さんなどは実際に買い物も出来ます。そして、市場というだけあって、新鮮な魚介類をはじめとして、稚内の土産菓子なども売っていました。

しかしながら、観光客の姿が少ないように感じます。午前中の早い時間帯から



↑ 副港市場の一角
懐かしい感じのお店が並んでいます

□ 道立宗谷ふれあい公園

ここで、稚内新エネルギー研究会会長の長谷川さんに、研究会の事業についてのお話をうかがいました。稚内の代名詞ともいえる風は、生活に害をもたらずものでもありますが、それを逆手にとつて、エネルギー開発というプラスのイメージを付加させて大事にしていこう、というのがこの事業につながっています。自分たちが生まれ育った稚内を、自分たちの手で再び盛り上げていこうという意気込みや熱意が感じられました。だから私たちも、この研修に真剣に取り組まなければならぬのだと、あらためて気を引き締めました。

お話をうかがった後、私たちは童心にかえって（？）、公園の遊具で遊んで帰りました。特に、私たちのお気に入りになったのはフリーフォールです。遊具なのにあのスリル・・・開発された方は素晴らしいです。

□ 宗谷丘陵とウィンドファーム

稚内にいる間は車に乗せていただくことが多かったので、久々の徒歩は疲れしました。でも、風がとてもし心地よく、遠くに見える牛や風車がのどかな風景を作り出していました。ここから見えるのは、遠くまで続く海や丘陵で、それは悩みも吹き飛んでしまうくらい雄大です。フットパスコースは、車に乗っていくよりも断然、歩く方をオススメします。また、地理を学習していた人にとっては聞き覚えのある「周水河地形」。これを眼下に見ることが出来ます。昔の地球が垣間見えるかもしれません。

宗谷丘陵では、ウィンドファームという風車群が見られます。五十七基もの風車がここで作られています。残念ながら近くまで行つて見ることはできませんでしたが、宗谷丘陵の頂上から見た風車の林は、一生懸命仕事をしていると同時に、

